

長崎の先人たちの生き方にふれることで、地域社会に対する誇りと愛情を育むことができる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
事前学習 2時間	長崎とオランダの関係について考えよう ○江戸時代の長崎の有名人について知ってることを話し合う。 ○江戸時代の対外関係について話し合う。	・自分たちの考えを自由にのびのび発表させる。 ・長崎の歴史的な背景についても考えさせる。	・参考図書など ・インターネットの活用
問題追求 2時間	博物館で調べよう 資料を見る ○全員で博物館の概要や資料について聞く。 ○学習カードをもとに展示資料を見る。	事前打合せ／博物館 ↔ 学校 ※展示資料の確認 見学マナーの指導 ・職員と教師の連携により資料について助言と指導をする。	・施設ガイドやパンフレット ・展示室資料 ・展示キャプション ・学習カード
まとめ 2時間	調べたことを発表し、話し合おう ○調べたことを発表し話し合う。 ○話し合ったことをまとめる。 ※班ごとに分野別にまとめて発表することもできる。	・長崎の先人たちの活躍が、その後の日本に及ぼした影響について考えさせる。	・学習カード

【参考】人物解説

【阿蘭陀通詞】

出島のオランダ商館で通訳や貿易に従事した役職。特にオランダ船入港に際して、新商館長から提出されるオランダ風説書は、鎖国下の日本にもたらされる貴重な海外情報で、その和解は通詞の重要な仕事となった。

【語学】

本木 正栄／もとき しょうえい（1767～1822）

本木良永の長男。フェートン号事件以後、商館長ヘンドリック・ドゥーフについてフランス語を学習していたが、商館員ブロンホフにも英語を学ぶようになり、わが国での英語学習の先駆けとなった。1811年英語辞典10巻を完成し幕府に納めた。

志筑 忠雄／しづき ただお（1760～1806）

語学はもちろんのこと、天文、地理、数学、力学、物理、博物など多方面に精通していた。語学では、文法の必要性を説き「詞品考」を作った。志筑の著作の内、「暦象新書」はニュートンの弟子ジョン・ケイル著作の蘭訳本によるが、彼の論解を加えている。「鎖国論」はケンペルの「日本史」から鎖国の是非を論じる部分を抄訳したもので「鎖国」という語は彼の造語といわれている。

馬場 佐十郎／ばば さじゅうろう（1787～1822）

志筑忠雄について蘭学を修める。ロシア語を習得し「俄羅斯語小成」11巻を編集した。そのほかに、ショメールの百科全書の和訳「厚生新編」にもあたった。

【医学】

本木 良意／もとき りょうい（1628～1697）

出島蘭館に蘭館医という高級外科医が常駐するようになったのは1641年が始まりとされている。良意もケンペルの教えを受けた。オランダの解剖書を翻訳した。

吉雄 耕牛／よしお こうぎゅう（1724～1800）

オランダ語のみならず天文、地理、医学などあらゆる分野で指導的立場にあった。特に医学においては、吉雄流外科を打ち立て、その開祖となった。尿診断や梅毒の研究の開拓者としても知られる。門人の数は600人を超え、青木昆陽、前野良沢、杉田玄白、大槻玄沢、平賀源内、林子平、司馬江漢らは、いずれも耕牛の教えを受けている。「解体新書」の初版に耕牛の序文がある。

榎林 宗建／ならばやし そうけん（1802～1852）

シーボルトに医学を学ぶ。1849年筑後町に医学塾・大成館を作って多くの門弟を育成した。痘苗の研究で知られる。

【科学】

本木 良永／もとき りょうえい（1735～1794）

オランダ語、ラテン語、フランス語に通じていた上に天文、地理、医学と研究の分野も広く博学をうたわれた。数多くの訳書で知られている。

学習カード いろいろな先人についてそれぞれのプロフィール票を作ろう

何をした人？どんな本を書いたの？生まれは？
どんな顔？どんな人に影響を与えたのかな？

プロフィール票

名前

顔

12 学校に博物館を作ろう

校内の施設を有効利用して、自分たちが制作した作品や資料などを展示し、創造的で美しい学校環境作りに生かすことができる。

○日常的に郷土の資料と関わることで心豊かな学校生活が実現できる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
事前学習 1時間	校内博物館について話し合おう ○どんな校内博物館にしたいか、話し合う。 話し合いをもとにそれぞれ興味・関心があるものについて調べる ○各自で追求したい、課題を設定する。 ○課題ごとにグループを作る。 〔グループ例〕・広報グループ ・展示グループ ・解説グループなど	事前打合せ／博物館 ↔ 学校 ・自分の興味関心と周りの情報をもとにテーマを決定させる。	・全国の美術館や博物館のパンフレットやガイドブックなど
問題追求 2時間	博物館で調べよう ○博物館の展示方法を聞く。 ○課題をもとにグループごとに調べる（広報・展示・解説グループなど）。 ○調べてわからないことなどを職員に聞く。	見学マナーの指導 ・職員による展示方法についての解説。	・美術館、博物館ガイドブックやパンフレット ・学習カード
計画 1時間	調べたことをまとめ、校内博物館をつくる計画を立てよう ○調べたことをまとめ計画を立てる。 ○グループごとに計画を発表する。	・グループごとに意見交換し、計画の見直しをさせる。	・学習カード ・使用するもの（OHP、模造紙、パソコン）
まとめ 5時間	校内博物館を作ろう ○グループごとに制作する。 ・会場図・キャプション（解説パネル） ・ガイドブック・ポスターなどの作成 ○資料を展示し、全校の生徒や保護者に鑑賞してもらう。	・グループのテーマ、作業過程を十分生かし、制作させる。	・展示するための作品 ・グループごとに作成した展示品など
発信 3時間	自分たちの活動をみんなに伝えよう ○会場をデジタルカメラなどで撮影し、学校のホームページ上で公開する。 ○来館者にアンケートを実施し、今後の学習に生かす。	・ホームページ作成を支援する。	

学習カード

作品を展示するためには、作品の展示位置、作品を紹介するキャプションと呼ばれるプレートなどさまざまなところに工夫します。さらに、展覧会を開くときは、ポスターやチラシを作成し、看板や案内板を立てたり、多くの仕事があります。自分たちが制作した作品や、学習した掲示物などを集めて博物館にしてみましょう。

校内博物館のテーマを書こう。

調べ学習

博物館で調べることにについて書こう。

調べたことにについて書こう。

イラストなどを使ってグループの計画を立てよう。

授業を終えての感想を書こう。

日頃、目にすることができない様々な施設を見学することで、博物館の役割について知ることができる。

- 博物館は、作品や資料を守るためにさまざまな施設設備があり、そのための工夫がなされている。ただ展示するだけが博物館ではないということを理解させ、文化財の保護などにも関心を向けさせる手がかりとなる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
事前学習 1時間	博物館について考えよう ○作品を守るために何が大切かを考え意見を発表させる。 ○博物館にはどんな施設が必要なのかを考え、意見を発表する。 ○博物館で働いている人はどんな仕事をしているのか考え意見を発表する。	事前打合せ／博物館↔学校 ※見学コース・時間の確認 見学マナーの指導 ※事前学習として学校で考えさせてもよい。 ・教師と博物館職員の連携により授業を進める。	・学習カード ・博物館施設ガイドなど
博物館施設見学 2時間	博物館を知ろう ○職員による解説を聞きながら博物館の施設を見学する。 ○職員の話聞いて疑問点などを質問する。 ○作品を守るために大切なことを知る。 感想をまとめ発表しよう ○各自、学習カードに感想などをまとめ発表する。	・職員に文化財についての考え方なども指導してもらう。 ※写真が撮影できるか確認し、デジタルカメラで記録させる。 ※各部所にいる職員にもインタビュー形式での応答をさせる。	・デジタルカメラ
まとめ	感想をまとめ、みんなに伝えよう ○学級新聞をつくり知らせる。 ○ホームページなどで発信する。	・ホームページ作成を支援する。	・デジタルカメラ ・パソコン

【資料】博物館の施設について

●文化財保存のための温度・湿度について

対 象 品 目	温度℃	湿度%	そ の 他
甲冑・陶器・ガラス・木像・パステル画	16～24	46～63	木像は急激な温湿度変化をさける
家具・エッチング・水彩画・不透明水彩画	16～24	45～63	
衣装・織物・象牙・写真フィルム	16～24	50～63	
寄せ木細工・油絵・漆器	16～24	56～63	絵画など特に傷みやすい作品は一定温湿度、例えば15.6℃ 58%
地図など	16～24	45～63	
写本・羊皮紙	16～24	45～63	

参考文献:登戸健三:保存化学、No1

収 蔵 庫

美術品等の収蔵保管をする場所。作品の保護のことを考え、コンクリートの躯体の上にムク材等を使った二重壁とし温湿度の管理を行っている。徹底した警備を行っており特定の職員以外入ることができない。

保存修復室

痛んだり、傷ついた美術品等を修復する場所。さまざまな薬品を使用するため換気機能などが配慮されている。

写真撮影室

美術品等を撮影する場所。収蔵庫と同じ温湿度の管理を行える空調設備を備えている。

作品搬出入口

美術品等の搬入搬出をする場所。大型トラックがそのまま入り、シャッターを下ろして作業ができる。
(外気の影響が施設内に及ばないようにしている)

空調機械室・中央制御室

館内の空調や監視及び警備機器の操作などをする場所。
(機械室は、音や振動が館内に影響を与えないような工夫がされている)

学 習 カ ー ド

①博物館でたずねたいことを書こう！

②博物館の施設を見学して気づいたことや感想を書こう。
作品を守るためにどんな工夫がされていたのかな？

③博物館で働いている人の話を聞いて感想を書こう。

「長崎から」という視点で江戸時代がどのような時代であったかを考え、改めて長崎の歴史を知ることができる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
学習計画 2時間	江戸時代を概観する ○江戸時代がどのような時代であったか、小学校時の学習内容を確認する。 長崎から江戸時代を概観する ○長崎貿易・鎖国・蘭学・長崎奉行・キリスト教・朝鮮通信使・シーボルトなど。 各自で追求したい、課題を設定する ○課題ごとにグループを作る。 ○調べ方について話し合う。	・小学校時代の既習学習をワークシートで確認させる。 ・当時の長崎が日本社会に大きな影響を与えていたことに気づかせる。 ・長崎から江戸時代を考えるという視点をきちんと押さえる。 ・自分の興味関心と周りの情報をもとに自己決定させる。 ・問題解決の方法、手順を考えさせる。	・長崎県教育委員会発行「長崎県の文化財」他
問題追求 2時間	博物館で調べよう ○職員の説明による博物館の概要を聞く。 ○学習計画をもとにグループごとに調べる。 ○調べてわからないことや疑問点を職員に聞く。	事前打合せ／博物館↔学校 ※展示資料の確認 見学マナーの指導 ・展示室や情報室等で十分調べさせる。 ・職員と教師により問題点を解決させる。	・博物館ガイドブック ・展示作品やキャプション ・博物館の検索システムや図書 ・学習カード
資料作成 2時間	調べたことをまとめよう ○調べたことを発表しやすいようにまとめる。 ○グループでの中間報告会を行う。	・学習のまとめ方にはいろんな方法があることに気づかせる。 ・グループで各人の発表、意見交換、課題との整合性、補充調査の必要性などを話し合わせながらまとめさせる。	・博物館で調べた学習カード等 ・使用するもの（OHP、模造紙、パソコン）
まとめ 2時間	調べたことを発表し、話し合おう ○調べたことをグループごとに発表する。	・グループでの考えや思いを十分表現させる。 ・長崎が歴史上重要な役割を果たしてきたことを再認識させるとともに、郷土に対する愛着を持たせる。	・班ごとに作成した発表資料

学習カード

江戸時代について知ってることを書いてみよう。

江戸時代の長崎について知ってることを書いてみよう。

班の課題を記入しよう。

●調べたいことや職員に聞きたいことを
まとめよう。

○調べてわかったことや職員に聞いてわかった
ことをまとめよう。

【課題(テーマ)や感想をまとめよう】

長崎の江戸時代の様子について博物館で調べることで、より深く歴史に関心を持つことができる。

○近世長崎の様子について調査活動を行うことを通して現在の長崎への理解を深めさせる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
問題設定・計画 1時間	調べるテーマを決め、計画を立てよう ○鎖国下の長崎の様子について、「貿易都市長崎」「長崎と中国」「長崎とオランダ」の中から各自で小テーマを決める。 ○各小テーマについて、2～3人程度の班に分かれ、小テーマを追求するための疑問を考える。 ○博物館の展示資料の一覧を見て、調査計画を立てる。	・博物館で各自の小テーマについて調べられることを予告し、そのための準備であることを理解させる。 ・江戸時代の長崎の様子に興味を持って調べるように、関心を高めさせる。 ・限られた時間内で調査できる	・博物館ガイドブック等 ・テーマに関する参考資料
問題追求 3時間	博物館で調べよう(次項活動例参照) ○鎖国下の長崎の様子について、「貿易都市長崎」「長崎と中国」「長崎とオランダ」の視点から、博物館の資料や職員への質問をもとに調べる。 ○各自でメモを確実に取り、班で協力して疑問を解決する。	事前打合せ／博物館↔学校 ※展示資料の確認 見学マナーの指導 ・生徒の疑問をあらかじめ博物館に知らせておく。	・博物館展示資料一覧 ・博物館パンフレットやガイドブック ・展示資料
まとめ 2時間	発表資料を作成しよう ○博物館での調査をもとに、各班でまとめを行い、発表資料を作成する。	・班で協力して作成させる。 ・模造紙、冊子、パンフレット、プレゼンテーションソフトなど様々な方法で発表できることを説明する。	・模造紙、OHP、パソコン等
発表 1時間	調べたことを発表しよう ○調べたことや、わかったことをまとめ、各班ごとに発表を行う。	・発表中にメモを取らせる。 ・各班の発表の評価をさせる。	・発表資料

活動例(課題追求:長崎歴史文化博物館利用の時間)

	学 習 活 動	教師・博物館の支援	教材・資料など
導 入	1.博物館のガイドブック等で施設の概要をつかむ。 2.職員から調査活動のポイントや注意事項を聞く。	・事前に博物館との打ち合わせを行っておく。 ・博物館内でのマナーを確認させる。	・博物館ガイドブック等
展 開	3.自分のテーマ追求のための調査活動を行う。 ・学習計画をもとにグループごとに調べる。 ・調べてわからないことや、疑問点を職員に聞く。 ・各班または個人で記録を行う。	・生徒の活動をVTRや写真などで記録する。 ・生徒の活動の進み具合をチェックし、適切な助言を与える。 ・複数のクラスを引率する場合はTTができるようにし、生徒の活動の支援が十分できるように配慮する。 ・限られた時間の中で、見通しを持って学習を進められるように助言する。	・VTR ・デジタルカメラ
ま と め	4.集合整列をして、博物館の職員へのお礼をする。		

●各班のテーマ追求のための疑問例

①「貿易都市長崎」について ●貿易品にはどんなものがあつたのか ●長崎奉行所の役割は何だろう ●長崎の町人は長崎貿易にどのように関わつたのだろう ●長崎貿易でどれくらいの利益があつたのか ●中国、オランダ以外とは本当に貿易をしていないのか ●貿易額は中国とオランダのどちらの国の方が多かったのか ●オランダや中国はどんな船で長崎に来ていたのか ●貿易都市長崎の警備は どうなっていたのか
②「長崎と中国」について ●中国との貿易ではどのようなものが取り引きされたのか ●中国との貿易により、日本にどんな文化が伝わつたのか ●長崎くんちは何か関係があるのか ●唐人屋敷はいつごろ、どこにつくられたのか ●唐人屋敷はどれくらいの広さで、何人ぐらいの人がいたのか ●中国人は長崎でどんな生活(食べ物・服装・日用品・娯楽など)をしていたのか
③「長崎とオランダ」について ●オランダとの貿易ではどのようなものが取り引きされたのか ●オランダとの貿易により、日本にどんな文化が伝わつたのか ●出島はいつごろ、どこにつくられたのか ●出島はどれくらいの広さで、何人ぐらいの人がいたのか ●オランダ人は長崎でどんな生活(食べ物・服装・日用品・娯楽など)をしていたのか ●出島にはだれでも出入りすることができたのか ●長崎くんちは何か関係があるのか

●この学習の評価について

- (1) 自分が考えた疑問を率直に質問して、課題解決に向かって努力する。(関心・意欲)
- (2) 鎖国下の長崎の人々の様子を具体的に知ること、現在の長崎の様子と関連づけて考察することができる。(思考・判断)
- (3) 課題の解決のためにさまざまな資料を利用することができる。(資料活用)
- (4) 鎖国と長崎の関わりや貿易都市長崎の特殊性について理解することができる。(知識理解)

博物館に展示している工芸品を調べることで、長崎県の特産品や伝統産業について知ることができる。

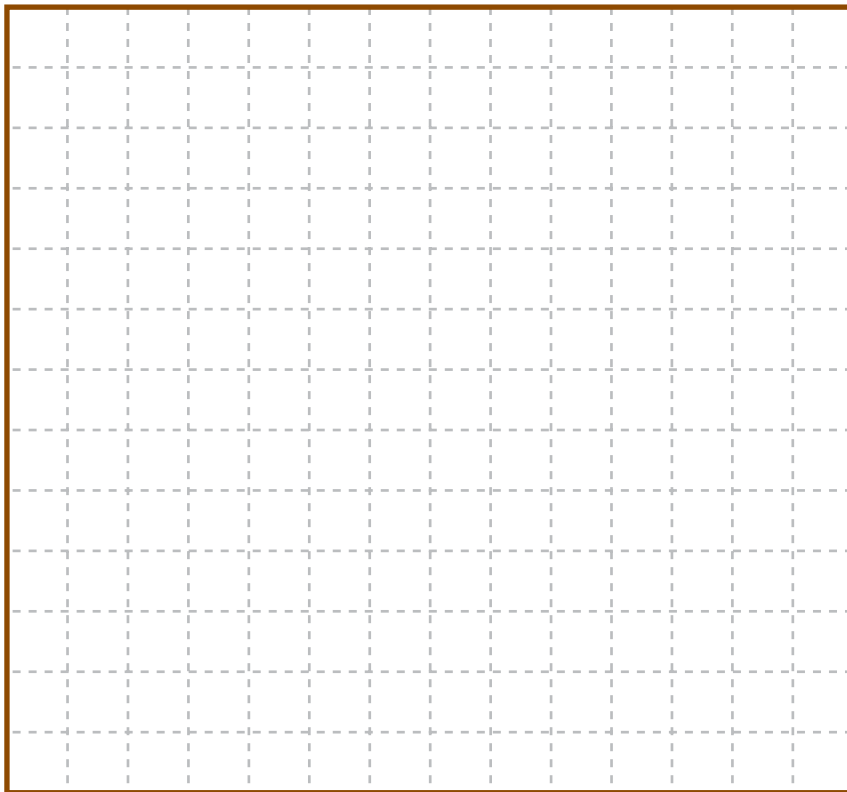
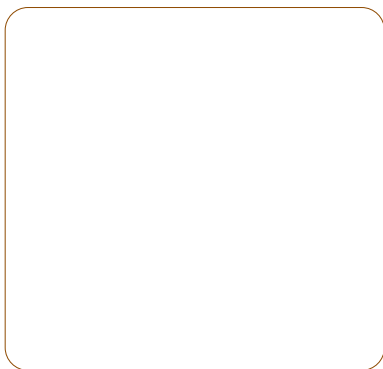
学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
問題追求 3時間	歴史文化博物館で調べよう ○職員の解説を聞きながら作品を鑑賞する。 ○学習カードをもとに調べる。 ○調べてわからないことや疑問点を職員に聞く。	事前打合せ／博物館↔学校 ※展示資料の確認 見学マナーの指導 ・展示室や情報室等で十分調べさせる。 ・職員と教師の連携により、問題点を解決させる。	・博物館ガイドブック ・学習カード
資料の作成 1時間	調べたことをまとめよう ○調べたことを発表しやすいようにまとめる。	・各人の意見交換、補充調査の必要性などを話し合わせながらまとめさせる。	・学習カード
まとめ 1時間	調べたことを発表し、話し合おう ○調べたことを発表する。 ○発表をもとに長崎県の工芸品の特性などについて話し合う。	・長崎県の工芸品を知ることによって地場産業への興味関心を高め、身近なものとしてとらえさせる。	
発信 1時間	自分たちの活動をみんなに伝えよう ○学校のホームページ上で発信する。	・ホームページ作成を支援する。 ・自分たちの活動を知ってもらうことによって活動意欲をさらに高めさせる。	

学習カード

自分が調べる工芸品の中で、
気に入った資料を一つ選んで、
スケッチしてみましょう。

気になる箇所については、虫
眼鏡で覗いた気分で拡大して
描いてみよう。



資 料 名

制 作 年

作品の特徴などについて分かったことを書こう。

疑問点や質問したいことについてまとめよう。

自分たちの郷土長崎県の歴史や文化に関するテーマを設定し、自ら学ぶ意欲を持ち、課題解決に向かって努力することができる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
課題設定 3時間	活動計画を立てよう ○概要説明 全体的な概要を知る。 ○アンケート調査 中テーマ ①人物 ②貿易 ③文化の中から選択する。 ○グループ編成 中テーマの中でグループ編成を行う。 ○テーマ設定 グループごとに小テーマを設定する。 ○活動計画立案 班ごとに活動計画を作成する。	・自分たちの郷土長崎について理解を深めるため、歴史文化博物館を利用した調べ学習を行うことを説明する。 ・自分の興味関心をもとにテーマを決定させる。 ・グループで小テーマを設定し、グループ単位で調査を行うことを説明する。 ・自分たちの班のテーマを解決するためには何について調べればよいのかを明確にさせる。	・インターネットの活用 ・中テーマ決定のためのアンケート
問題追求 4時間	博物館で調べよう ○調査計画立案（次頁活動例参照） インターネット、書籍、博物館等で何をどうやって調べるかを計画する。 ○調査（次頁活動例参照） インターネットや書籍による調査。博物館等での調査・見学。	事前打合せ／博物館 ↔ 学校 ※展示資料の確認 見学マナーの指導	・博物館パンフレットやガイドブック等 ・博物館展示作品一覧 ・インターネットの活用
まとめ 8時間	調べたことを発表しよう ○資料整理 調べた資料を取捨選択する。 ○発表準備 資料のまとめを行う。 さまざまな形式で班ごとの発表準備を行う。 ○発表…発表会を行う。 ○反省…反省会を行う。	・足りない資料や不十分な点を確認させる。 ・模造紙、冊子、パンフレット、プレゼンテーションソフトなど様々な方法で発表できることを説明する。	・調査資料 ・模造紙 ・OHP ・パソコンなど ・各班の発表資料

活動例(長崎歴史博物館見学のための事前指導の時間)

	学 習 活 動	教師の支援	教材・資料など
導 入	1.博物館資料の一覧を見て、本時の目当てをつかむ。	・事前に資料一覧を提示して、博物館資料への興味・関心を広げる。	
展 開	2.博物館訪問の計画を立てる。 (1) 見学資料の確認 (2) 質問事項の確認 3.訪問にそなえて基本的な事項の確認をする。 (1) 注意事項の確認 (2) 持参品の確認	・課題解決のために必要な資料の有無を調べさせる。 ・限られた時間の中で、見通しを持って学習を進められるように助言する。 ・博物館利用の注意を行う。	・博物館ガイドブック等 ・博物館展示作品一覧 ・インターネットの活用 ・博物館利用の注意
ま と め	4.今日の活動を振り返り、次時の活動を知る。	・次時の予告を行う。	

活動例(長崎歴史文化博物館見学の時間)

	学 習 活 動	教師の支援	教材・資料など
導 入	1.代表生徒が訪問の意図を博物館の職員に説明する。	・事前に博物館職員と打ち合わせをする。	・博物館ガイドブック等
展 開	2.博物館資料の見学をする。 (1) 職員の説明を聞く。 ・記録と質問 (2) 自由に見学、体験活動を行う。 ・記録と質問 3.記録のまとめをする。 4.班内の調査報告会に向けて準備をする。 5.班内で調査報告会を行う。 6.再度、観察や調査を行う。	・施設でのマナーを確認させる。 ・VTR等の視聴覚機器の活用により、記録にとどめさせる。 ・収集しにくい資料については、積極的に所員にアプローチするように収集方法を知らせる。 ・自分の考えをまとめるため、表やグラフ等でまとめるように助言する。 ・調査報告会の内容や発表に仕方についてアドバイスする。 ・調べた内容について各班で報告会を設定する。 ・調査報告会で気づいた新たな疑問の解決のための調査を行わせる。	・VTR ・デジタルカメラ ・収集資料
ま と め	7.調査の反省をする。		

21世紀を担うこどもたちが、文化財を知り、学習を深めることで、文化財保護の意識を高めることができる。

○私たちの郷土長崎県は、古い時代からわが国と大陸との架け橋として、また西洋文化を受け入れる窓口として、重要な役割をはたしてきたことを知る。

○貴重な文化遺産が数多く残っており、これらの文化財は後世に伝えていかなければならないものであることを知る。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
学習計画 1時間	長崎県の文化財について知る ○文化財には有形、無形、民俗、記念物、伝統的建造物群などがあることを知る。 ○今回は美術工芸品、歴史資料などの文化財を中心に学習することを知る。 話し合いをもとにそれぞれ興味・関心があるものについて調べよう ○各自で追求したい、課題を設定する。 ○課題ごとにグループを作る。 ○調べ方について話し合う。	・指定されてない文化財の中にも貴重なものが多いことを押さえる。 ・自分の興味関心と周りの情報をもとに決定させる。 ・問題解決の方法、手順を考えさせる。	・長崎県教育委員会発行「長崎県の文化財」他
問題追求 4時間	博物館で調べよう ○職員より長崎歴史文化博物館の概要を聞く。 ○学習計画をもとにグループごとに調べる。 ○調べてわからないことや疑問点を職員に聞く。	事前打合せ／博物館↔学校 ※展示資料の確認 見学マナーの指導 ・展示室や情報室等で十分調べさせる ・職員と教師により問題点を解決させる。	・博物館ガイドブック ・展示作品やキャプション ・博物館の検索システムや図書 ・学習カード
発表 4時間	調べたことをまとめ発表しよう ○調べたことを発表しやすいようにまとめる。 ○調べたことをグループごとに発表する。 ○博物館での学習をもとに、関連する地域の文化財についても調べ、発表にもりこむ。	・グループで各人の発表、意見交換、課題との整合性、補充調査の必要性などを話し合わせながらまとめさせる。	・学習カード等 ・使用するもの(OHP、模造紙、パソコン等)
まとめ 5時間	自分たちの実践を多くの人に伝えよう ○自分たちの実践を小冊子などにまとめて知らせる。 ○ホームページなどで発信する。	・自分たちの活動を多くの人達に知ってもらうことで、活動意欲をさらに高めさせるとともに文化財保護の意識高揚につなげる。	

資料:文化財の種類について

文化財保護法で文化財として定義しているのは次の6種類である。全てわが国にとって歴史的・芸術的価値が高いとされるものであり、これらの内で重要なものが国によって重要文化財等に指定もしくは選定される。

- 1 有形文化財
 - 建造物
 - 美術工芸品（絵画・彫刻・工芸品・書籍・典籍・古文書・考古資料・歴史資料）
- 2 無形文化財
 - 芸能
 - 工芸技術、その他
- 3 民俗文化財
 - 無形（衣食住・生業・信仰・年中行事に関する風俗慣習・民俗芸能）
 - 有形（上記に使用される衣服・器具・家屋等）
- 4 記念物
 - 史跡（貝塚・古墳・都城跡・城跡・旧宅）
 - 名勝（庭園・橋梁・溪谷・海浜・山岳）
 - 天然記念物（動物・植物・地質鉱物）
- 5 文化的景観
- 6 伝統的建造物群

※県・市町村指定の文化財もあり、それらを入れると膨大な数になります。県指定文化財については、長崎県教育委員会発行の「長崎県の文化財」、長崎県教育委員会ホームページをご覧ください。

学習カード

調べた文化財の名前。

所在地など。

文化財の特徴などについて、調べてわかったことを書こう。

疑問点や質問したいことについてまとめよう。

19 近世長崎の歴史年表を完成させよう

博物館の展示資料を見ながら、近世長崎の歴史年表を完成させることで、長崎の歴史に対する理解や関心を深めることができる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
事前指導 30分	○生徒を5班に分けておき、各班1枚のプリント(別紙)を担当する。	・「近世長崎の歴史学習プリント」を用意する。	・「近世長崎の歴史学習プリント」
問題追求 2時間	博物館での学習 ○博物館で関連する展示物を見ながら、プリントを作成する。 ○関連する展示物について、職員の解説を聞き、疑問点について質問をする。	事前打合せ／博物館↔学校 ※展示資料の確認 見学マナーの指導 ・職員は関連展示物について解説をし、質問に答える。	・博物館ガイドブック等
まとめ 1時間	○帰校後プリントを完成させる。 ※方法は、下記のどちらでもよい。 ○全員にプリントを配布し、各班ごとに発表させる。 ○全員にプリントを配布し、教師が解説を加える。	・他の班が興味を持ち、再度博物館を訪れたいようになるように、プリントの穴埋めだけでなく、関連展示物についても紹介する。	・「近世長崎の歴史学習プリント」

「近世長崎の歴史学習プリント」 No1～No5

No1～No5、それぞれ1ページになるよう加工して使用するのが使いやすいでしょう

西 暦／年 号		
No1 長崎の誕生～江戸時代以前		
1565	永禄8	(①) 船、福田に入港→長崎が歴史の舞台に登場
1569	永禄12	(②) 神父、トードス・オス・サントス教会を建設(現在の春徳寺)
1570	元亀元	(③) とイエズス会の間で長崎を南蛮貿易港にする協定が結ばれる
(④)	元亀2	長崎の町の建設が始まる
		①船、はじめて長崎へ入港
1580	天正8	③が長崎と茂木を(⑤) 会に寄進
(⑥)	天正10	(⑦) 使節、長崎を出発
1584	天正12	(⑧) が浦上をイエズス会に寄進
1588	天正16	(⑨) が長崎、茂木、浦上を直轄地とし、鍋島直茂を初代長崎代官に命ず
1590	天正18	⑦使節、長崎に帰る
1592	文禄元	⑨が寺沢広高を初代長崎奉行に命ず
1596	慶長元	(⑩) 西坂の丘で殉教
1597	慶長2	有馬におかれていた(⑪) 、(⑫) が長崎に移る
No2 江戸時代の始まり～鎖国の完成		
1602	慶長7	家康の政治顧問である儒学者(①) が来崎←長崎貿易調査のため?
(②)	慶長9	(③) 制度始まり、長崎商人③仲間を結成
1610	慶長15	(④) 号事件起こる
1612	慶長17	(⑤) 事件起こる 幕府による貿易統制のきっかけ
		長崎とマカオで同時に月蝕の観測実施
1614	慶長19	長崎の教会やキリスト教関連施設のほとんどが破壊される
1616	元和2	(⑥) 船以外の外国船入港を平戸、長崎に限る
1619	元和5	長崎代官村山等安処刑←キリシタンだった!後任は(⑦)
1622	元和8	西坂の丘で(⑧) の大殉教 - 55人が火刑
1629	寛永7	キリシタン摘発のため(⑨) 始まる
1634	寛永11	日本初のアーチ形石橋(⑩) ができる
		長崎最大の祭である長崎(⑪) 始まる
1635	寛永12	中国船の来航を長崎に限る
1636	寛永13	ポルトガル人を収容するための(⑫) が完成
1640	寛永17	ポルトガル人61名が西坂で処刑
(⑬)	寛永18	平戸の(⑭) 商館を出島に移転
		長崎警備を(⑮) 藩と(⑯) 藩で勤めることとなる
No3 長崎の安定期		
1646	正保3	国宝(①) 寺大雄宝殿完成
1653	承応2	松浦氏、幕府の命で長崎港口に台場を築く
1654	承応3	黄檗宗の僧(②) 来崎し興福寺に入る
1655	明暦元	(③) 制度廃止され相対貿易となる
1663	寛文3	長崎大火で66ヶ町の内57町が全焼
1673	延宝元	長崎奉行所新設、西役所と立山役所の2か所となる
1676	延宝4	長崎代官4代目(④) が密貿易により流罪
1682	天和3	オランダ通詞本木良意「和蘭全体?内外分合図」を著す
(⑤)	元禄2	十善寺の薬園跡に(⑥) 完成→中国貿易統制
1690	元禄3	(⑦) が出島商館医として着任
1695	元禄8	オランダ通詞(⑧) が「華夷通商考」を著す
1698	元禄11	貿易を管轄する長崎会所の設立
1699	元禄12	元禄期の勘定吟味役(⑨) が来崎
1702	元禄15	唐人屋敷下の海岸に(⑩) 蔵所が完成

西 暦／年 号		
1706	宝永3	榑林流外科の祖(⑪)が「紅夷外科宗伝」を著す
1708	宝永5	イタリア人宣教師(⑫)を長崎へ護送
(13)	正徳5	(⑭)新例出される→貿易制限
1725	享保10	浜町の築地に(⑮)座を設け輸出用棹銅を作る
1728	享保13	ベトナムから象が2頭唐船で来崎
1752	宝暦2	エレキテルの発見で知られる(⑯)が来崎
1775	安永4	植物学者(⑰)が商館医として来崎→「日本植物誌」を著す
1788	天明8	画家の司馬江漢長崎に來訪
1799	寛政11	(⑱)が商館医として来崎→初の蘭日辞書(⑲)を作成
No4 ヨーロッパ列強の進出～開国		
(1)	文化元	ロシア使節(②)が来崎→通商要求 狂歌で知られる(③)が長崎奉行支配勘定役として長崎に赴任
(4)	文化5	(⑤)号事件が起きる→長崎奉行は切腹
1814	文化11	初の本格的英語辞書「諳厄利亜語林大成」完成し長崎奉行に提出
1818	文政元	勤王思想家(⑥)が来崎
1823	文政6	ドイツ人医師(⑦)が商館医として来崎
1824	文政7	シーボルトが(⑧)に医学塾を開く
(9)	文政11	シーボルト事件が起きる
1835	天保6	歌舞伎役者の7代目(⑩)が来崎
1840	天保11	町年寄(⑪)が洋式砲術を採用→海防の必要性を幕府に建議
1842	天保13	(⑫)の改革で長崎の町芸者禁止
1844	天保15	(⑬)国王より開国勧告の手紙が来る
1848	嘉永元	(⑭)が種痘を実施 (⑮)が印刷機・活字をオランダから購入
1850	嘉永3	松下村塾で知られる(⑯)が来崎
(17)	嘉永6	ロシア使節(⑰)が来崎→通商要求
1855	安政2	幕府(⑱)を設置、伝習生として(⑳)や榎本武揚などが来崎
1857	安政4	ポンペが来崎→医学伝習所開設 稲佐郷飽の浦に長崎溶鉄所の建設開始→後の長崎造船所→今の(㉑)造船所
1858	安政5	列強より抗議され(㉒)を廃止
No5 貿易の開始～江戸幕府の滅亡		
1859	安政6	自由貿易開始→外国人の(①)を建設 (②)ら多数の貿易商人来崎
1861	文久元	初の英字新聞を長崎で発刊 初の西洋式病院が開院
1862	文久2	(③)が写真館を開業→(④)など来崎した多数の著名人を撮影
1863	文久3	②が南山手に邸宅を建築
1865	慶応元	プチジャン神父により(⑤)が完成 / 神父、(⑦)を発見 ④ら亀山社中を結成→日本初の貿易商社 グラバー、大浦海岸通りで(⑥)を走らす 亀山社中が(⑧)と改称する
1867	慶応3	(⑨)事件起きる→キリスト教の弾圧 グラバーと薩摩の(⑩)の共同出資により小菅にソロバン道場完成
1868	明治元	維新政府により長崎裁判所(後の長崎府)成立

【解答編】…近世長崎の歴史年表完成!! これであなとも長崎歴史通

No1 長崎の誕生～江戸時代以前

- ①ポルトガル ②ガスパル＝ピレラ ③大村純忠 ④1571 ⑤イエズス ⑥1582 ⑦天正遣欧 ⑧有馬晴信
⑨豊臣秀吉 ⑩26聖人 ⑪コレジヨ ⑫セナリヨ

No2 江戸時代の始まり～鎖国の完成

- ①林羅山 ②1604 ③糸割符 ④マードレ・デ・デウス ⑤岡本大八 ⑥中国 ⑦末次平蔵 ⑧元和 ⑨踏絵
⑩眼鏡橋 ⑪くんち ⑫出島 ⑬1641 ⑭オランダ ⑮福岡 ⑯佐賀

No3 長崎の安定期

- ①崇福寺 ②隠元 ③糸割符 ④末次平蔵 ⑤1689 ⑥唐人屋敷 ⑦ケンペル ⑧西川如見 ⑨荻原重秀
⑩新地 ⑪榊林鎮山 ⑫シドッチ ⑬1715 ⑭海舶互市 ⑮銅 ⑯平賀源内 ⑰ツンベルク ⑱ドゥーフ
⑲ドゥーフ＝ハルマ

No4 ヨーロッパ列強の進出～開国

- ①1804 ②レザノフ ③大田南畝 ④1808 ⑤フェートン ⑥頼山陽 ⑦シーボルト ⑧鳴滝 ⑨1828
⑩市川団十郎 ⑪高島秋帆 ⑫天保 ⑬オランダ ⑭榊林宗建 ⑮本木昌造 ⑯吉田松陰 ⑰1853
⑱ブチャーチン ⑲海軍伝習所 ⑳勝海舟 ㉑三菱 ㉒踏絵

No5 貿易の開始～江戸幕府の滅亡

- ①居留地 ②グラバー ③上野彦馬 ④坂本龍馬 ⑤大浦天主堂 ⑥蒸気機関車 ⑦かくれキリシタン ⑧海援隊
⑨浦上 ⑩五代友厚

参 考…長崎を訪れた二人、平賀源内と司馬江漢

【平賀 源内／ひらが げんない 1728-1779】

江戸中期の博物学者、戯作者、浄瑠璃作者で、高松藩の足軽の子として生まれました。外来の知識を求めて長崎に二度（1752年[宝暦2]、1770年[明和7年]～1771年[明和8年]）遊学しています。源内は、西洋画にも大きな関心を寄せましたが、もともとは博物学研究に基づくものであったようです。西洋の銅版挿絵による写実画の実用性に惹きつけられたと考えられます。早くから西洋文化に注目した源内は、杉田玄白、司馬江漢、小田野直武など多くの人たちに刺激を与えました。

【司馬 江漢／しば こうかん 1747-1818】

江戸に生まれ、漢画家、浮世絵師、肉筆美人画家、洋風画家、思想家として多彩な活動をしました。1780年頃に平賀源内らの影響を受け銅版画や油絵を修得しました。日本で最初のエッチング作品を制作したことで知られています。長崎に来たのは1788年（天明8）のことでした。旅行記「江漢西遊日記」によると、旅の第一目標は西洋画の技法を極めることであったが、長崎には西洋画に通じた画家がいなかったとも書いています。いずれにしても、長崎で西洋の書画や器物を見聞したことは江漢に大きな影響を与えたと思われます。



平賀源内肖像（大村黙考著「戯作者考補遺」写し）
慶應義塾図書館蔵



司馬江漢工夫【阿蘭陀茶臼】



【湖辺遊禽図】1789頃

江漢初期の油彩画です。サインにも注目してください。

長崎県の伝統産業である「波佐見焼」を調べることでその特徴や「波佐見焼」が近世の人々の生活を変えたことを知ることができる。

学習過程

	学 習 活 動	学校の指導と博物館の支援	教材・資料など
導 入 25分	博物館の陶磁器資料を見る ○美術工芸展示ゾーンの陶磁器作品を鑑賞する。 ○「波佐見焼」の作品を鑑賞する。	・「波佐見焼」を中心に長崎県の美術工芸資料の解説をする。	・ガイドブック ・博物館展示資料 ・学習カード
展 開 1時間	「くらわんか碗」について調べよう ○展示資料の中から「くらわんか碗」を探す。 ○「くらわんか碗」について調べる。 ○中尾窯を中心とした波佐見の近世の登り窯の写真や図面、図書資料を見る（世界最大のものがあることを知る）。 ○一度にどれくらいの製品が作られたかを考える。	・長崎の町屋模型展示において「くらわんか碗」が使用されていることを示す。 ・「くらわんか碗」について、図書資料や検索パソコンを使い調べる。 ・「くらわんか碗」について職員は解説をする。（登り窯や道具についても） ・「くらわんか碗」が大量生産品であることを気づかせる。	・博物館展示資料 ・図書資料 ・検索パソコン ・学習カード
ま と め 25分	「くらわんか碗」について考える ○波佐見の「くらわんか碗」の登場により、近世の人々の日常食器が陶器から磁器へと変わっていったことを知る。 ○現在でも波佐見焼きの特徴となる大量生産品・普及品の製造が近世から続くものであることを知る。		・学習カード

資料:「くらわんか碗」・波佐見焼きの変遷について

【くらわんか碗】

江戸時代大坂、京都間の重要な交通手段として、淀川を行き来する三十石船がある。この小舟に近づき「あん餅くらわんか、酒くらわんか」とかけ声をかけながら酒や食べ物を器に盛って売る商いが繁盛していた。船はそのかけ声から「くらわんか舟」、使われた食器は「くらわんか碗」と呼ばれ、この器は、食べ飲みした後淀川へ捨てられた。いつの頃にか使い捨てされるぐらいの安い日用食器を総称して「くらわんか碗」と呼ぶようになったといわれている。

元禄の頃から幕末まで、波佐見では「くらわんか碗」を生産し、その生産量は全国一であったと考えられる。全国の江戸時代の遺跡からほぼ確実に波佐見焼きが出土することから、波佐見焼きは江戸時代のベストセラー商品であった。

【肥前陶磁器生産・波佐見焼きの始まり】

1580年頃、各地の大名が秀吉が行った朝鮮出兵の際、朝鮮の陶工をつれて帰ったことにより肥前地域で窯業が起こったと考えられている。皿などの重ね焼きの技法に朝鮮系の目積み法が用いられていることからそれが窺える。波佐見でも朝鮮の陶工、李祐慶が焼き物を始めたという伝承がある。

※目積み法…皿などを重ね焼きする際、釉薬で製品どうしがくっつかないように重ねた皿の間に胎土や砂で作った団子を挟んだもの。

【波佐見焼きの変遷】

1580～1610年代 陶器が作られた時代	陶土を材料とした陶器が作成された時代。下稗木場窯跡がその時代のもので初期の焼き物の例である藁灰釉の皿が出土している。
1610～1630年代 陶器と磁器が作られた時代	陶石を材料とした磁器が作られ始めた時代。畑の原窯跡（村木地区）が代表。
1630～1650年代 磁器の生産が中心となった時代	三股古窯跡など三股地区を中心に、高級品である片切り彫りの青磁が作られた時代。
1650～1690年代 海外に輸出された時代	中国が明から清へと王朝が交代する混乱の中で、中国産磁器に変わるものとしてオランダ東インド会社が波佐見焼きを含め肥前の磁器を海外に輸出した時代。皿山地区や永尾地区が中心。
1690～1860年代 安価な磁器を大量に生産した時代	中尾・永尾・三股・皿山を中心に国内向けの「くらわんか碗」などの安価な日用食器を大量に生産した時代。この時代の窯は世界でも類を見ない巨大な窯が作られていた。

学習カード

●長崎県の陶磁器について、どのようなものがあるのかまとめよう。	
●「波佐見焼き」について歴史や特徴などをまとめよう。	
●「くらわんか碗」について調べたことをまとめよう（製作された時期、製作方法、生産量、特徴など）。	
●「くらわんか碗」の登場が与えた影響についてまとめよう。	